

## 第7回 白河市自治基本条例を考える市民会議 会議録（要旨）

日 時 平成23年10月3日（火）午後7時～9時10分

場 所 市役所本庁舎正庁

参集者 学識経験者委員

清水座長

市民委員

角田委員、金内委員、鷹栖委員、人見委員、石原委員、沼田委員、菟川委員、  
穂積委員、和知委員

職員委員

我妻委員、泉委員、遠藤委員、川島委員、齋藤委員、佐川委員、野崎委員、  
松島委員、渡邊委員

オブザーバー

梅田、佐藤（亮）、橋本、藤原、水間、山田、河合、工藤、鷄徳、佐藤（冴）、  
渡部

事務局

企画政策課 邊見課長補佐、関課長補佐兼係長、藤田副主査、石川主事

### 1 開会

### 2 グループ別会議（前半）

検討項目②「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと～市民と行政のキャッチボールを実現するために～」のまとめ及び各グループの発表を行い、市民参画と協働によるまちづくりに必要なこととは何なのかについて、様々な意見や考えを共有した。

#### （1）各グループ発表概要

##### 【Dグループ】

○参画する人、強制参加（参画には自主的な参加も含まれると考えられるため、強制参加とした）、参画できない人、参画しない人の4つのパターンからどういった解決策があるのかを探るようにした。

○基本的には、真ん中に近いほうに現状、問題点・課題があり、その外側に、それぞれの問題点・課題に対する解決策を示すという形でまとめている。

○参画する人は、既に参画して行動に移しているのでそれほど問題はないのではないかと思うが、「積極的に参加する人だけの意見で進めないようにバランス感覚も必要なのではないか」、「参加した理由を分析して、より多くの人の参加に繋げていく責務が行政にあるのではないか」の2点が問題点として考えられる。

- 強制参加している人については、行政に携わる者としては、こういった人達が支えているという部分もあるのではないかと感じる。問題点としては、できれば参加したくないという人も中にはいるのではないかとこの点が挙げられた。これに対しては、「子どもを対象とした体験型のイベントを通して、行政への関わり方への意識付けをする、小さい頃から行政を身近に感じていただく」、「地域への愛着、連帯感、歴史伝統への関心を高め、意識づけをする」、「参加した証が必ず残るようにする、答えを出して必ず参加した人に伝える」といったことが解決策となるのではないかと。
- 参画できない人について、どうして参画できないのかということを見ると、まず、団体に入りにくいということがある。これに対する解決策としては、団体に入りたいという人向けに積極的に情報提供ということが考えられるが、その一方、個人でも参画しやすい受け皿を企画するというのも1つの解決策になるのではないかと。次に、時間がなくて会への参加ができないという人への解決策としては、「集まりやすい時間設定をする（夜間の開催など）」、「インターネットなどにより参加をできるようにする」、「託児所やデイサービスなどを整備して参加しやすい環境を整える」などが考えられる。「あまり大げさなことはしたくない、わざわざ出でていくまでしたくないが自分の意見を言いたい」という人に対しては、「ツイッターなどで意見を言える環境を整える」といった解決策が考えられる。また、「行政による情報提供が不足している」という現状・課題に対しては、「市民参加の仕方を提示して市民が選択できるようにする、自分の得意分野を活かせるように選択するメニューを提示する」、といったことが解決策となるのではないかと。
- 一番重いのが参画しない人である。参画について面倒である、興味がないと感じている人については、市民としての意識が低いということが背景にあるのではないかと。その解決策としては、「子どもを対象とした体験型のイベントを通して、行政への関わり方への意識付けをする」、「地域への愛着、連帯感、歴史伝統への関心を高め、意識づけをする」、「参画できる雰囲気づくりをする」、「参加した証が必ず残るようにする」、「ボランティアへの参加など、身近で自分の出来るところから参加していただく、入口を低くする」などが考えられるのではないかと。
- 今回の分類を左右に分けると、左側のグループ（参画する人、強制参加）は参画できている人、右側のグループ（参画できない人、参画しない人）は参画できていない人となる。比較すると、参画できていない人の課題が非常に多いということになる。また、例えば、強制参加の方は、何か要因が発生すると、右側の参画しない人に移ってしまうといったこともでてくるのではないかとこの意見もあった。
- 今回の分類を上下に分けると、上のグループ（参画する人、参画できない人）は

参画への意欲がある人、下のグループ（強制参加、参画しない人）は参画に消極的な人となる。上のグループの人へのキーワードとしては、「情報提供」、「環境整備」、「雰囲気づくり」といったことが挙げられる。下のグループについては、「教育、小さい頃からの教育により意識を高める」、「意識付け」といったことがキーワードとして挙げられる。

- 参画しない人や強制参加のところで解決策として提示した「子どもを対象とした体験型のイベントを通して、行政への関わり方への意識付けをする」ことの実例として、子どもたちが作成した遊び場を紹介する冊子（四日市市「遊びばこ」）について紹介。

### 【Cグループ】

- 現状と課題に多くの時間を割いてしまい、結論までまとめきれなかったのが、現状と課題について議論してきた過程に重点を置いて説明をする。
- 現状について、市民一斉清掃や町内会活動などの「地域のつながりの参画（地域に住んでいることで自然と行政に参画している）」、電話で直接伝える、直接窓口に伝えるなどの「直接的な行政への参画」、選挙などの「間接的な行政の参画」、行政や市民が主体的に関わるイベントへの参加などの「主催する参画」の4つに分類した。
- 課題・問題点については、現状をどう捉えているかということについて市民の間に格差があり、一様に現状から問題点を抽出することができなかった。
- 課題をまとめる際、行政への課題と市民への課題とに分けた。結果として行政への課題が多かった。
- 市民への課題として、「住民の積極的な参加が見込めない」、「代表者が住民の意見をまとめられない」、「一部の声が大きい人の意見や思いが伝わりやすくなっている」などが挙げられた。その解決策としては、「時間と場所を配慮する」、「環境整備」、「行政もフォローする」といったことが考えられる。
- 行政への課題とその解決策としては以下のようなことが考えられる。
  - ・「市民ニーズが把握できない」、「市民と行政の横の連携がとれていない」といった課題に対しては、ピンポイント会議の開催などが解決策として考えられる。
  - ・「市民が出した意見の説明責任が果たされていない」という課題に対しては、「決定過程の公開」などが解決策として考えられる。
  - ・「行政の都合で担当者が変わってしまい連携がうまくいかなくなる」といった課題に対しては、抽象的ではあるが、「行政としての責任意識を持つ」ことが解決策として考えられる。
  - ・「自分の意見を市に伝えたくてもどこに伝えればいいのかがよく分からない」という課題に対しては、「専用の窓口をつくる」ことが解決策として考えられる。

・「一部の方にしか情報が伝わらない」、「伝達方法に問題がある」といった課題に対しては、「人が自由に出入りする場所での情報公開」がといったことが解決策として考えられる。

○お互いの認識の違いによっても参画の捉え方が違うので、市民も行政もお互いの認識を認めた上で、どのような参画の方法があるのか協議していくことが大事である。

#### 【Bグループ】

○「市に意見を伝えようとしても、どこにどのような意見を伝えと良いのかがよく分からない」、「アパートへ入居していると、広報誌なども届かず、情報が入らず困ってしまった」という現状・課題への対応として、「電話、窓口等での住民の方々の質問・意見を担当部署へ伝える（行政の対応）」、「ネット・投書などで市に意見する（住民側の対応）」、「窓口の方に意見や質問をする（住民側の対応）」が考えられる。その対応に関する問題点として、「一個人の意見としては反映できない」、「市民の総意であるか判断するのが困難」、「個人の問題なのに行政へ対応を求めている」、「財源の裏付け」などがあり、その解決策として、「広報誌を新聞折り込みに入れる」、「コンビニや病院などに広報誌を置く」、「HPの利用」、「手引き書の作成」など、情報を伝達していこうという対応策があがった。しかし、更にその解決策の問題点として、「意見といっても様々なケースがあるので、それに全て対応できる手引き書の作成は困難ではないか」という意見があった。

○地域活動・市政への参加の仕方がわからない」という現状・課題への対応として、「催し物への参加」、「現行制度の活用」といったことがある。その対応に関する問題点として、参加者がいないことが考えられる。その解決策として、「伝統的な行事を広くPRすることで募金も集まる」、「地域の交流を深める」といったことが挙げられる。しかし、更にその問題点として、広くPRするには、広報費がかかってしまうということが挙げられた。

○「市と連携・協力している活動として、奉仕作業・スポーツ行事・学校行事などの行事への参加について市と連携・協力している、自治会活動を通して市と連携・協力している」といった意見があり、その問題点として、市民の意識改善の必要があるということが挙げられる。このため、参加、連携・協力していく中で、市民が積極的に参加していこうという意識にならなければいけない。そのための方策として、「アパート入居者などにも声をかけ、地域一丸となって活動する」、「交流のきっかけをつくる、参加を促す」といったことが考えられる。

#### 【Aグループ】

○市民側の現状と問題及び行政側の現状と問題に分けて考えた。

○市民側の現状として、大きく4つある。1つ目は、「行政からの情報の発信の仕方に問題がある」ということで、それに対して、「行政が分かりやすく情報を発信しなければならない」という課題がある。2つ目は、「伝えたことがあってもどうやって伝えればいいのか分からない」といった「市民からの情報の受信に関する問題」があり、それに対して、「市民の要望を伝えるにはどうしたらよいか」という課題がある。3つ目として、「市民の市政に対する関心の低下」、4つ目として、「町内会に入っていないと要望しにくい、要望しても行政側の対応に時間がかかるといった参画に関する問題」があり、これらの課題として、「市民が参加しやすい環境を行政側がどう整えていくのか」、「決定するまでのプロセスをどう効率化するのか」といったことが挙げられる。

○行政側の現状も4つある。1つ目は、「官・民の意識に差がある」という問題があり、その課題として、「意識の差をどのようにしてうめるのか」、「市役所に関係していない人の思いや意見にも目を向ける必要がある」といったことがある。2つ目は、「要望があり協力したくても予算がなくてできない」といった予算に関する問題があり、それに対して、「予算の取り方をなんとかする」といった課題がある。3つ目は、民間のイベントに市の職員があまり参加していないという問題があり、それに対して、職員の参加率の向上といった課題が考えられる。4つ目として、「公平・公正さを求めるといきづまる」、「担当課が複数にまたがるときに、うまく協力できない」といった組織的な問題・現状があり、それに対して、ヨコの連携をまく機能させるという課題がある。

○白河市として、市民と行政のキャッチボールを実現するために一番簡単にできそうので、市民側の課題と行政側の課題に共通する解決策として多くでたのが、情報の交換に関するもの。情報公開の体系化や魅力ある情報公開など、緑枠で囲まれた部分。

○市民側の課題として挙げた「市民が参画しやすい環境をどう整えていくのか」、「決定するまでのプロセスをどう効率化するのか」といった課題の解決策としては、「みんなが集まりやすい場所で開催する」、「計画等の実施、反省には市民も参加する」といったことが考えられる。

○行政側の課題として挙げた、「行政のヨコの連携を機能させる」という課題の解決策としては、「お昼を一緒に食べるなど、各課交流の場を設ける」といったことが考えられる。

## (2) 質疑応答

質問は特に出なかった。

## (3) 清水座長講評

みなさん、お疲れさまでした。D、C、B、Aの各グループとも、それぞれ特徴のある発表をしていただけたのではないかと思います。

Dグループについては、参画の主体がどういう人かということに着目した分類をしたということが特徴的だったと思います。参画する上での問題点、例えば、参画する人のところで言えば、「参加する人だけの意見が強くなる」など、色々と挙げていただきました。そういう意味では、参画する上で、公平性という問題点があるだろうということ、参画しない人、参画しなければいけないけどしない人という人に対し、参画のインセンティブを与えるということが1つのポイントであるということも指摘していただきました。その一方、参画できない人に対しては、環境整備や情報の提供の充実などがポイントとして挙げられました。総じて、4つの分類に応じたポイントがうまくまとまっていたのではないのでしょうか。ただ、1つ気になったのは、参画しない人の中で、「参画したくない人」をどう位置づけるのか、強制的に参画させることはできないし、かといって、全く何もしないということでもいいのか、このあたりがもう少し詰められていればよかったのかなと思います。

次に、Cグループですが、現状の話と課題・問題点の話に分けて話していただきました。現状に関する話の中で、「市民参加する際の参加のレベル」について、グループの中で意見の違いがあったという風に感じました。市民参加をどこまで行政が受け入れるか、行政があらかじめどこまで市民に対して選択肢を提供するのかといったことについては、個別の問題に応じて、そのレベルというのも様々あるだろうと考えることができると思います。もちろん、最低限どこまで行政がやるべきということはあって然るべきですが、その上でどのレベルの参加が認められるのかということについては、考える余地があるのではないかと感じました。ただ、条例案を検討する上では、問題のレベルに応じてどこまで市民参加を認めるのかということよりも、市民参加を進めるためにはどういった方法論があるのかといったことが重要になります。その意味では、現状と課題・問題点の話に分けたことは、結果的によかったのではないかと思います。課題に対する解決策については、Dグループと同じような解決策も出ていたと思いますが、Cグループの特徴は、市民の側の課題と行政の側の課題を区別していた所にあると感じました。この点は、他のグループにとっても斬新だったのではないのでしょうか。また、行政側の説明責任、情報をより透明化していかなければならない、行政の側で窓口を一本化しなければいけないといった提案は特徴的な意見だったのではないのでしょうか。

次に、Bグループについては、より具体的な事案に即して考えているという点、特に、市民参加が一定レベルまで進んだ場合にさらに出てくる問題点について、更にその解決策を具体的な事案から考えていただいたという点が斬新であったと感じました。財政措置をどう確保するのかといったお金の問題、どういった人達の意見を受け入れるべきなのか、どれぐらいの数の人達の意見があれば受け入れるべきなのかといった、市民・意見の多様性に対する行政の対応をどうすべきなのかといった点に関心があるのかなと感じました。しかしこれはかなりセンシティブな問題で

すので、結論が出なかったのではないのでしょうか。

最後にAグループですが、問題の現状を考える段階から、市民と行政とに分けて考えた点が非常に特徴的だったと思います。図の真ん中に大きく枠で囲まれています。情報の共有が特に重要なんだということを強調されていたのではないかと感じました。特に市民参加や行政と市民とが協働していく上では、市民と行政とが互いに持っている情報を共有することが極めて重要になります。また、役所の中の連携についてより重く考えていた点が非常に面白かったと思います。役所の中での交流・連携を深めるにはどうしたらいいのかということも1つの論点となるということを取り上げていただきました。

各グループ全てに共通しているのは、情報の共有をどのように進めていくのか、その情報自体をどのように充実させていくのか、情報に触れる機会をどれだけ充実させていくのかということにポイントが置かれていたということです。また、市民参画の先には、市民と行政とが役割分担をして協力していくという「協働」があります。各グループとも「市民と行政との協働」という言葉にはあまり触れてはいなかったようですが、その前提となる交流という場面を頭に置いた議論が、みなさんの市民参画の議論の中に入ってきていたのではないかと思います。

以上で私からの講評としたいと思います。

### 3 グループ別会議（後半）

検討項目③白河市のまちづくりの主体とその役割・責務～まちづくりの主体とは？～の検討から、グループ替えを行った。本来であれば、「白河市のまちづくりの主体」に関する検討に入る予定であった。しかし発表の終了が予定時間をオーバーしたため、今回は、新しいグループで自己紹介と役割分担を決め、時間に余裕があるグループのみ検討に入ることにした。次回の会議では、「白河市のまちづくりの主体」及びその「役割や責務など」について検討する。

### 4 次回の会議等のお知らせ

次回の会議の日程及び次回の会議までに行う宿題について、会議資料により事務局から説明した。

### 5 閉会